

このハゼのもう一つの大きな特徴はその口ににあります。口はほぼ水平で、しかもかなり大きいのです。上顎の後端は眼をはるかに超えます。となると、小動物を餌にしているような印象を受けますが、実はそうではなく、底質に付着している珪藻類や藍藻類を食べています。歯は両顎に1列あり、有明海特産のムツゴロウとよく似た形をしています。



水平で大きな口に注目。1ページと同一個体。

以前は、有明海北部の干潟だけに生息するとされてきました。現在では、八代湾と瀬戸内海からも知られています。不思議なことに、太平洋岸では宮崎県、和歌山県それに高知県からのみ知られているにすぎません。

高知県では1997年に四万十川河口域で初めて報告されました。その後、須崎湾で確認されていますが、2002年の高知県レッドデータブックで浦戸湾は空白地帯でした。私たちの調査では、衣ヶ島を中心とする広い地域で採集されており、本種が浦戸湾で繁殖しているのは確実です。

2004年11月21日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。